



岡村病院
院内報

歩 (あゆみ)

第 16 号

発行 岡村病院
編集 歩 (あゆみ)
編集委員会
平成 7 年 11 月 25 日

岡村病院 基本理念

私たちは、患者さん本位を第一に考え
高度な専門医療技術をもって
地域社会に貢献することを目指します。



グアム島の海岸

今月のことば

「人 の 和」

孟子の言葉に「天の時^しは地の利^しに如かず、地の利^しは人の和^しに如かず。」というのがあります。

敵と戦う場合、有利な時を見て戦わなければならないのは当然であります。しかし、時よりももっと大事なものは地理的条件、つまり地の利であります。地の利が悪ければ、時がよくても勝つ事は出来ません。そして、地の利よりも更に大切なものは人的条件、即ち人の和であるというのであります。

戦いに限らず、何事をするにも、基本的に大切なものは人の和であります。人心の一致・協力がなければ、どんなに他の条件がよくても事業は成功しません。

そして「人の和」も言うだけでは生れて来ません。必要なものは「人の和」を大切にす
る心。そして、謙虚に、辛抱よく、しかも積極的に「人の和」をつくり出す努力。そ
れがみんなに必要なのではないのでしょうか。

「ひとこと」言ってくたされば……



内科医長 川村 誠

皆様もご存じのように、現在の医学というのはかなり細分化しています。内科、外科のなかでの専門化に加え、いろいろな診療科目（たとえば眼科、耳鼻科、皮膚科、etc）があります。

岡村病院では、おもに循環器内科・消化器内科・心臓血管外科・消化器外科・肛門科・整形外科を診療しています。（人間ドックも開始しています）

このたびの病院改築で、循環器は虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、弁膜症、心筋症などの確定診断に必要な心臓カテーテル検査、直接冠動脈内で風船による処置をする冠動脈形成術（PTCA）消化器は大腸ポリープ、胆石症などを開腹せずにカメラで除去する処置ができるようになりました。また、内科では先頃より、深田順一先生（高知医科大学第一内科助教授）による糖尿病外来も始まりました。

ところで、最近では疾患の多様化によって病気によっては、他科との連携プレイが必要となる場合が増えてきました。たとえば、糖尿病を例にとってみましょう。有名な3大合併症は糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経症です。この場合、網膜症は眼科での検査が必要であり、腎機能が低下したときには透析を含めた治療法を考えなければなりません。また、高血圧で治療している人が普段経験したことのないような頭痛、めまいを訴えるときは脳神経外科、

耳鼻科での診療が必要になるかもしれません。

このような場合、いきなり脳神経外科、耳鼻科などを受診されてももちろん結構ですが、できれば現在かかっている病院に紹介状を書いてもらうのがよいのではないのでしょうか。その理由は、

- 1) 現在かかっている病気の内容、状態が正確に伝わる。
- 2) 現在の治療法、服用している薬の内容が正確にわかる。
- 3) 今後の治療において紹介先の医療機関と円滑な関係ができる。

などのいろいろな利点があります。

薬に関しては、昨年抗ガン剤との併用で問題となった抗ウイルス剤であるソリブジンの例があります。この場合は、併用による薬物相互作用が問題となりましたが、これ以外の問題もあり、薬物情報の重要性は強調されてよいと思われます。

岡村病院では、他科に診察をお願いする場合には、基本的にはドクターが紹介状を書いて、患者さんに持参していただくようにしています。ドクターからの要請で受診していただくときはもちろんですが、患者さん自身が他科受診を希望なさるときも、遠慮なさらずに申し出てください。「ひとこと」言ってくたされば、すぐに紹介状をお書きいたします。

ミシシッピ川からの手紙



院長・心臓血管外科医長 岡村 高雄

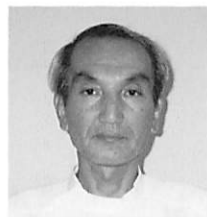
(3) 飛行機

アメリカ国内では鉄道も一部分走っておりますが、遠距離の交通手段は国土も広い事があり、航空機に依存する事になります。アメリカの主要空港は、その設備、規模においていずれも世界のトップクラスにふさわしい内容となっています。シカゴのオヘア空港は1980年代、世界で

最も離着陸の激しい空港と言われておりましたが、実際に滑走路を見ると、着陸しようとしている飛行機が、3～4機続いて降りてくるのが見え、事故にならないのが不思議に思える状態です。ターミナルも広いのですが、同時に駐車場も非常に広く、数千台駐車可能な施設もあります。駐車場が広い為、ターミナルま

（次頁下段へつづく）

未知なる光線 誕生100年



放射線科科长 島崎 巖

X線がドイツのW.C.レントゲン博士によって、1885年11月に発見された時は、日本では明治28年である。その数年前にエジソンが活動写真を発明し、それを日本が輸入した時でもあった。文学界では樋口一葉が活躍し、翌年1896年には第1回国際オリンピックが開催された時代でもある。また、X線発見の際、レントゲン博士が発表以前に医学への利用を考えていたと言うことである。博士自身がX線を用いて自分の手や、夫人の手を撮影していたことから確認できよう。この「未知なる光線」発見が、ちょうど100年前のことである。たしかに、医学の発展は、病理、解剖学の成立から始まり、聴打診の技術の進歩が挙げられるであろう。しかし、当時、人の体を透かして見ることの出来る光線

の発見は、広範囲にわたり、さまざまな角度からの診断に役立つに違いない。

現在、私達が何気なしに使っているX線であるが、発見当時のこのような経緯から推察すると頭の下がる思いである。

この未知なる光線は医療界で目ざましい発展をなし、今では一般撮影、C.T、DSA等に代表される様に、全身のあらゆる部分の診断に応用され、現在に至っている訳である。

日頃、皆様が何の気なしに観察しているX線写真にも、このような歴史がある事を知って頂きたい。今年はX線誕生以来100年目で、X線は100歳である。W.C(ウィルヘルム、コンラッド)レントゲン、1895年11月、エックス線発見。

患者さんからの便り

すべり

三山の嵐

315号室 安岡 睦哲

私は馬鹿な嵐です。頭の白いメガネを掛けた嵐です。私は馬鹿な嵐です。腹の黒い酒の好きな嵐です。

私は「丙子」昭和11年生れの男です。来年は還暦を迎え、新しい「歩み」が始まります。

私は今、入明町の岡村病院で療養しています。病名は、慢性肝炎(急性膵炎合併)、悪業の涯てです。例の百薬の長が過ぎたんですネ。お医者さんからは慎みなさいを繰り返し言われ、最近では絶対に止める様に言われていましたが……。駄目な私。今小康を得て近くの薫的さん、安楽寺さん、金曜市を散策出来る程度になりました。

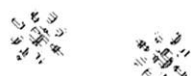
丁度、夏の土用の時に、急に腹と背中に激しい痛みが起り、急いで診察を受け、即入院しました。飲まず、喰べず、24時間点滴のし通しの1週間。流動食からお粥になる迄の2週間、痛みも和らぎ冗談も言える様になった3週間目、ああ私は助かったんだと安堵して、目に感謝と嬉しさの涙がホロリ又ホロリでした。

膵炎は痛いとは聞いてはいましたが、これ程痛いとは思いません。1昼夜に亘る痛みの中、飛んで来て見て呉れた看護婦さんの美しい顔、夜中に何回も見に来て下さった先生方の真剣な顔、痛みの中でも忘れることが出来ません。

治療も順調に進み、食事も美味しく喰べれ、増量して貰おうかと思っています。親切な入院患者さんとの対話から、私の常日頃の交際の悪さを思い知らされ、他人に親切に、他人の話しに耳を傾け、他人の意見を尊重することを第一に考えるようにしたいものです。

大きなウインド窓から見える北の山脈、青く連なる峯の奥の方に、三角形の頭を見せている工石山の美しさ、青く何処迄も高い空「プッセの詩」を誦じたくになります。そうだ、せめて気持ちだけでも遠い昔、白球を追い、拾い、掲げ、打った青春時代に帰らなくっちゃ。

病に負けずに頑張っている、悪い三山の嵐です。



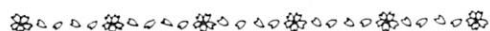
ムンテラ

看護ヘルパー 吉村 道子

「先生が患者さんにムンテラをします」と看護婦さんが言います。ムンテラとは、ドイツ語の「ムントーセラピー：Mund-Therapie」でムントとは口、セラピーとは治療のことで、口で行う治療、つまり会話による治療のことだそうです。

私は、お医者さんや看護婦さんのように高度な医学知識は身につけていないので、患者さんとの会話はできるだけ明るく、楽しい話をいつも心がけています。

「世の中に風景があるように、人の心の中にも風景がある。暗い風景もあれば明るい風景もあるし、悲しいものも楽しいものもある。この心の風景の描き手は他ならぬ自分自身である。」いつか読んだ本にこのような文章がありました。私は、入院をしている患者さんに、日常生活の不自由なところをお手伝いさせていただいています。その時、患者さんが描く心の風景をいっしょに感じられる心を持ち続けて行きたい。そして、もう一度逢いたいと言われるような自分でありたいと思っています。



7カ月間を振り返って

看護学生 竹内 千代

この病院に来て、もう7カ月がすぎようとしています。この7カ月間、慣れない事ばかりで失敗ばかりしていた様に思います。学校と、仕事の両立は、自分が思っていた以上に大変な事で、身体的にも精神的にも疲れることが多くありました。でも、少しでもしんどい顔を見ると、患者さんがはげましてくれました。優しく、楽しく患者さんとお話しができるから、何となくホッとします。

6ヶ月で部所も変わり、今新しく3Fで働かせてもらっています。退院後の片付けや掃除を

している時も、患者さんから「頑張りよ。」と声をかけてもらえ、とてもはげみになります。

まだまだ慣れず、失敗ばかりで迷惑をかけていると思いますが、よろしくお願ひします。

学校と仕事の両立も大変だけど、頑張りたいと思います。



初めての海外旅行

— グアム —

検査室 光森かおり

10月4日(木)、1班17名でグアムへ出発。

南の島といえば……、「白い雲が少しは後は真っ青い空、白い砂の白浜に、水色の綺麗な海、陸には椰の木が立ち並び、その横ではハイビスカスの赤い花が咲き乱れ、その花の香りが心地良い風に吹かれ微かに匂う。」という光景を思い浮かべていました。絵ハガキなどの綺麗な風景が頭に焼き付いていたせいでしょう。実際は、こちらは晴れ、でも遥かかなたの向うには雨雲が見られ、今にも雨が降ってきそうな空模様で、その反対側では、スコールの後で虹が見えている、といった天気でした。とにかく天気が変わりやすく、「天気予報って、有るのかな？」と、思ったほどでした。

1日目の市内観光では、雲ゆきが怪しかったのですが雨は降らず、なんとかもちこたえたといい天気でした。

2日目、雨音で目が覚めました。私達は、空軍基地のスターサンドプライベートビーチへ行く予定でしたが、本当に迎えのバスが来るのか心配でしたが、バスは9時丁度に迎えに来てくれました。このプライベートビーチは、チャモロ人の住んでいた所で、浜から陸地にあがると、すぐ椰の木のジャングルになっており、近くには山がありました。昔の人の住む場所としては良さそうな所でした。雨が降っているにもかかわらず水温は高く、色とりどりの熱帯魚がサンゴの間を泳いでいて、とても綺麗でした。

この日は、最終日で、タモンサンズプラザの海の幸、鉄板焼を食べ、グアムに名残惜しさを感じながらも、翌朝4時20分の飛行機に乗り、帰って来ました。

できることなら、今度はハワイに行きたいです。

ニューフェイスです。ヨ・ロ・シ・ク!!



藤田 みよこさん
看護婦
高知中央高校衛生看護科専攻科卒
高知市朝倉



川村 近さん
看護婦
県医師会准看護学院卒
高知市朝倉



山崎 順子さん
レントゲン室受付(パート)
清水高校・土佐簿記学校卒
高知市九反田



岡田 恭さん
調理員
四国女子短大卒
高知市宝町



渡辺 ゆかりさん
看護婦
高知市立高等看護学院卒
高知市神田



鎌倉 圭子さん
事務員
大阪医療秘書福祉専門学校卒
高知市朝倉



森田 恵子さん
事務員
高知学園短期大学食物栄養科卒
高知市本町

〈退職〉長い間ご苦勞様でした。

中澤 慶彦先生(医師)	9月
西山 宏明先生(放射線技師)	9月
中屋 栄子さん(准看護婦)	10月
小原 雅子さん(調理員)	10月

〈人事〉

岡村千佳子さん
事務主任に(9月1日付)

〈結婚〉～おめでとうございます～

藤田善巳さん(看護婦)
10月10日、西村誠さんと結婚されました。
中山雅代さん(看護婦)
11月1日、片岡秀一さんと結婚されました。
鍋島佐代さん(看護婦)
11月4日、田渕英身さんと結婚されました。

。。) SEIGO (西悟) 展 (。(。。

この度、院内にてSEIGO展を開催する運びとなりました。作者は高知県宿毛市出身で11年間に及ぶアメリカでの活動の後、現在高知市にアトリエをかまえて精力的に活動を行なっている現代美術の作家であります。本院の増改築に際しましても、CT室のデザイン等、大変御世話になり、この度開催の運びとなりました。アメリカ在住の作品から最新作まで16点を院内各所に展示しております。

移りゆく記憶と記憶の間、時間の間を表現しようとしている思いが込められている作品を主体としております。ベニヤ板の上にアクリルを10回程塗り重ね、その後に表面をこすり取り、内面から透明感のある輝きが生みだされる作品であります。難しく考えずに、観賞いただければと思っております。

表紙写真説明

『グアム島の 海岸』

今年の院内旅行はグアム島でした。第1班(10月4日～7日)、第2班(11日～14日)に分れて、グアムの美しい自然を楽しんで来ました。

— 編集後記 —

この所、忙しくて発行が予定より遅れましたが、皆さんのご協力により第16号を発行出来ました。ありがとうございました。今後共よろしくご支援、ご協力お願いいたします。